

放送日： 平成 20 年 7 月 20 日
タイトル： 陰嚢が大きくなる病気
担当者： 医師 金 哲将

陰嚢が大きくなる病気についてお話します。この症状を訴える場合、一般的には睾丸が大きくなった、精巣が大きくなった、袋が腫れてきたと言って外来に来られることが多い病気です。

まず一般的に考えられる病気ですが、次の3つが主に考えられます。

1 つ目は陰嚢水腫という病気です。陰嚢内の睾丸に接して水がたまる病気です。一般的には痛みが伴いません。懐中電灯を陰嚢にあてますと水が光を通しますので行燈の様に陰嚢が光ります。赤ちゃんにも時々見られますが、この場合自然治癒の可能性があること、治療する場合全身麻酔による手術が必要になりますので、経過観察になることが多いと思います。小児の場合針を刺して水を抜く治療はしない方がよい治療になっています。大人に見られた場合は、自然治癒の可能性はありませんので、下半身麻酔による手術が必要になります。ただ、命に関わる病気ではありませんので、そのまま様子を見ている患者さんもいます。針を刺して水を抜く治療は、ほぼ必ず再発しますので、あまり有効な治療法とはいえません。

2 つ目の病気は、痛みと発熱を伴う病気で、副睾丸炎や精巣上体炎と言われる病気です。細菌感染が原因ですので、抗生剤投与と氷嚢などで冷やす治療になります。治った状態で少しシコリの様なものが残ることが多いですが、生活するのに問題はありません。

最後に一番怖い病気が精巣にできる癌です。睾丸腫瘍や精巣腫瘍と言われるものです。時に血液の癌である悪性リンパ腫が原因のこともあります。痛みを伴わず硬い腫瘍を触れます。若いヒトにもでき、進行が速いのが特徴です。見つかったら数日以内に手術を施行し、治療法を十分検討することが必要な病気です。このように、陰嚢が大きくなった場合、治療法や病気の怖さがまったく違う病気が考えられる状態ですので、早い段階で泌尿器科に受診されることをお勧めします。